

復興への祈りを込めて...

平成29年4月16日。熊本地震の本震から一年。市民の暮らしはあの日から大きく変わりました。

国道57号をはじめとする交通インフラの寸断、多数の家屋の損壊、山々や農地、宅地に入った地割れなど、現在もその爪痕がいたるところに残っています。

昨年は、平年以上の降雨量があった梅雨期も、自然災害を教訓に市民の皆さまの高い防災意識により、大きな二次災害もなく無事乗り切りました。7月末には全ての避難所を閉鎖、8月末には応急仮設住宅が完成。市民の生活リズムも少しずつ元に戻りはじめ、11月には阿蘇の歴史のシンボルである阿蘇神社楼門再建などの本格工事も始まり、復旧復興に向けて着実に歩みを進めてきました。

4月16日は、震災を振り返り、これまでの多くの支援に対する感謝やこれからの復興に向けて、市内各所でさまざまなイベントが催されました。

地震を経験し、学んだ教訓を未来へつなぐ力強い市民活動が、多くの人たちに勇気と元気を与えています。

— 応援にありがとう —

阿蘇マルシェ

阿蘇を支援してくれたすべての方に感謝を込めて阿蘇草原保全活動センターで第19回阿蘇マルシェが開かれました。

復興を祈願して約300人のパルーンリリースで開会。市内の事業者が出店する全店舗で「ありがとう」にちなんだ390円（サンキュー）の商品を販売しました。内牧料理維新の会は限定200食の朝食を用意。阿蘇の春の味覚を味わおうと長蛇の列ができました。

また、「ありがとう」を伝えるステージや阿蘇ネイチャーランドによる熱気球搭乗体験、世界の名車来場など多くのイベントで賑わいました。



犠牲者追悼の黙祷と 復興に向けて祈念植樹

震災で不幸にも犠牲になられた方に追悼とご冥福をお祈りするとともに、復興の歩みを確実なものにするため、市内一斉にサイレンを鳴らし黙祷を捧げました。

また、阿蘇中央高校の生徒代表からは感謝と願いを込めた千羽鶴が佐藤市長に贈られました。

終了後は、市民一丸となって地震に立ち向かった日を風化させないため、佐藤市長、藏原議長、岩本県議会議員が市役所玄関前に復興祈念の桜を植樹しました。



— 天まで届け — 命の風揚げ

未来の子どもたちに争いのない美しい地球を伝える活動『みんなのFUJISAN地球フェスタWA 2017九州in阿蘇』の関連イベントとして、内牧遊水池で命の風揚げ大会が開かれました。

命の風揚げとは、東日本大震災で犠牲となった方々への追悼と復興の願いを込めて始めたことをきっかけに、世界各国で『世界平和、防災、復興、健康、命』の祈りを込めたイベントとして開催されています。

当日は、子ども達が自ら風を作。晴天の中、熊本地震からの復興を祈願して風揚げを行いました。初めて風を揚げた子どももいて完成した風が空高く揚がり楽しい一日を過ごした様子でした。

